

排泄ケアについて

高齢者の特徴・パット機能を考えると2回～12回/日の排泄交換回数が考えられる
 パットの機能性を考慮した場合、排尿よりも排便のほうが感染を含むリスクが高い

	特徴	パットの機能・特徴
排尿	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の尿量: 700cc～1200cc ・1回の排尿量: 100cc～150cc ・膀胱内の状態: 1時間に60cc～120cc溜まる 150cc～200cc程度で尿意を感じる ・菌はほとんど存在しない 	<ul style="list-style-type: none"> ・通気性が良い ・最大吸収量: 800cc
排便	<ul style="list-style-type: none"> ・1日2回、朝食後に多い ・食事後は腸が動きやすい ・排出量: 約150g/日が目安 ・腸内細菌を中心に、たくさんの菌が排出 	<ul style="list-style-type: none"> ・通気性が良い

トイレ誘導に関しては、4回～9回と大きな差がみられる オムツ交換は、ほとんど差がない

施設別 排泄回数比較

トイレ誘導者

施設	0時	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	排泄回数	
A施設		■							■					■							■					4回
B施設					■		■				■			■			■								■	7回
C施設	■				■		■		■			■		■			■		■							9回
D施設	■				■		■		■			■		■			■		■							9回

オムツ交換者

施設	0時	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	排泄回数	
A施設					■					■						■						■				4回
B施設					■				■						■						■				■	5回
C施設	対象者なし																									
D施設	対象者なし																									

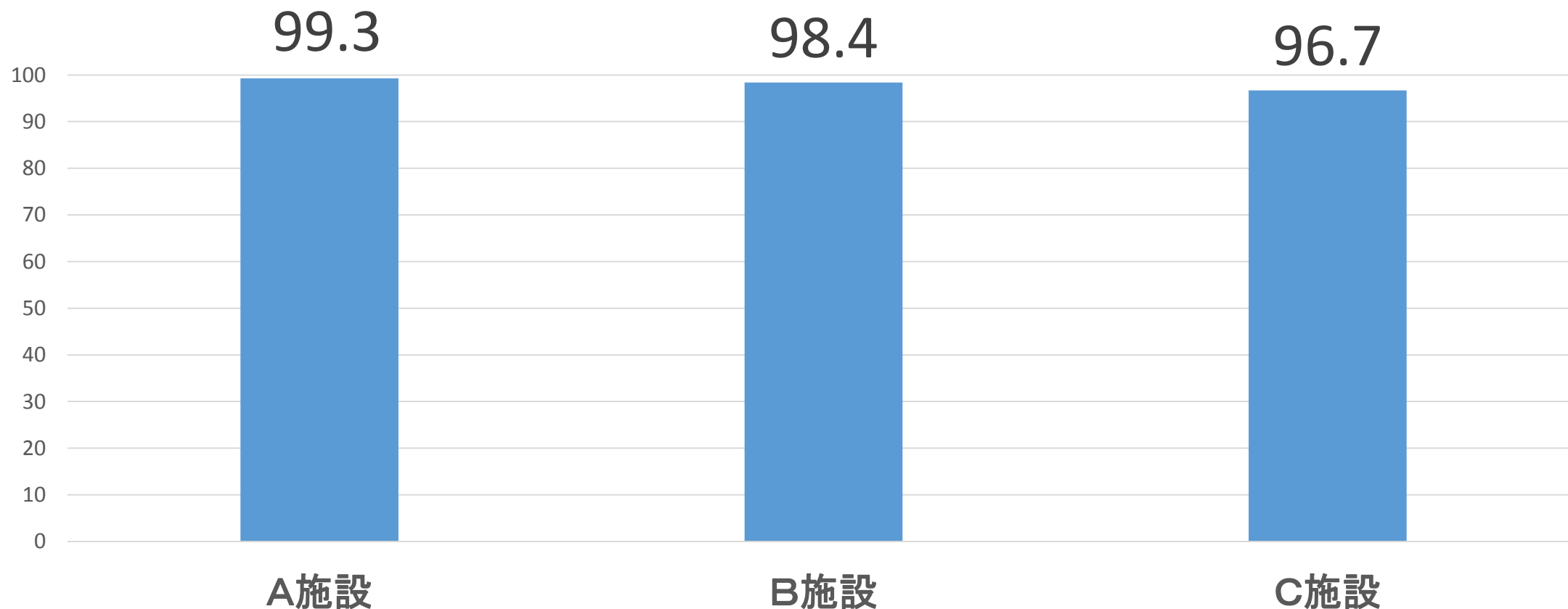
※C施設・D施設・・・排尿タイミング・尿量に応じて時間・回数は変動みられる

資料) A施設・B施設・C施設・D施設27年度排泄表

全体的な排尿有りの比率は大差はない

全排泄回数に占める排尿有り比率

(単位: %)

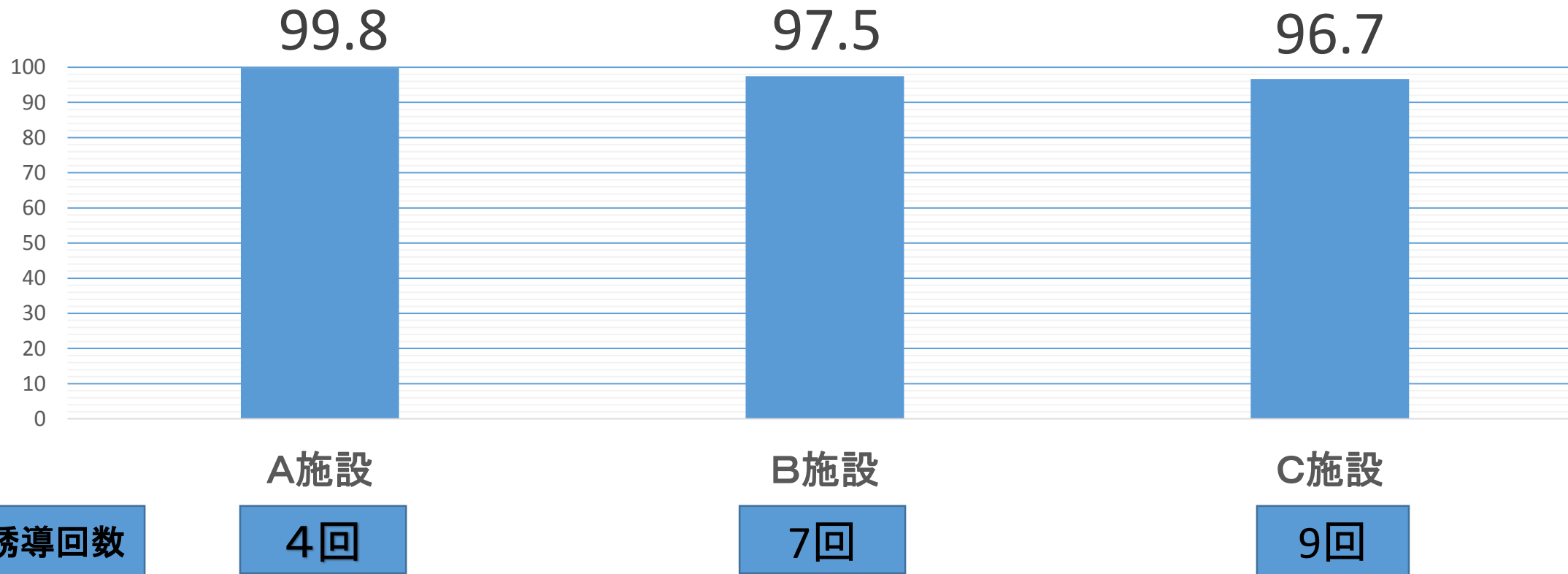


資料) A施設・B施設・C施設27年度4月排泄表

トイレ誘導回数による排尿有りの比率は大差はない

全トイレ誘導回数に占める排尿有りの比率

(単位: %)

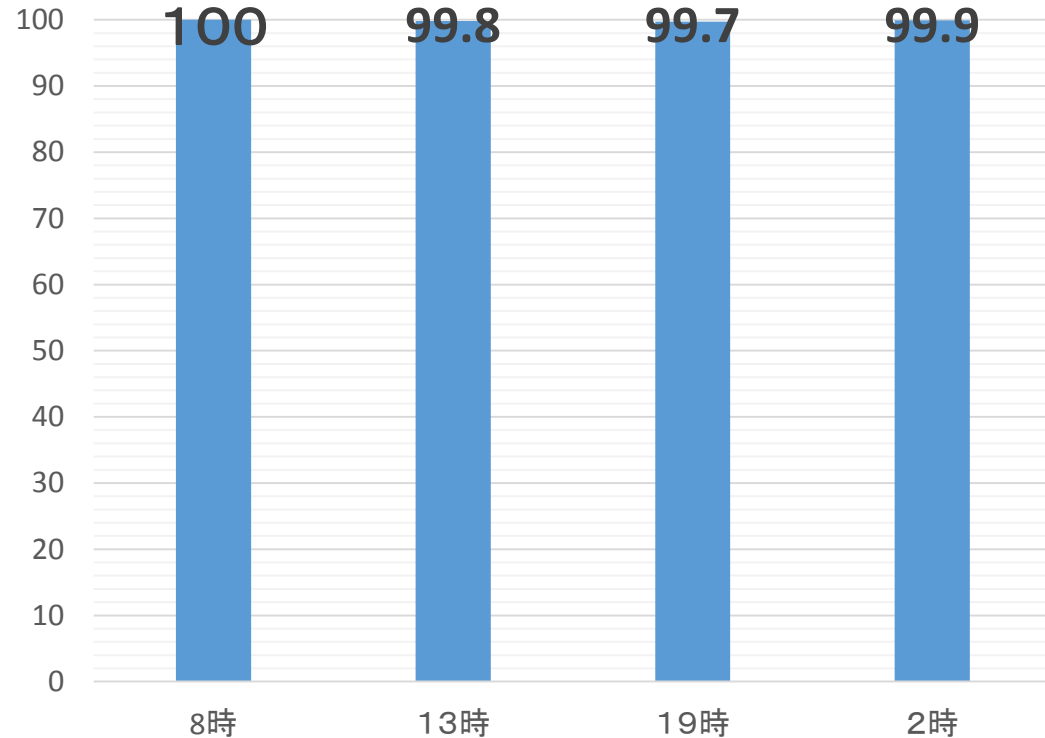


資料) A施設・B施設・C施設27年度4月排泄表

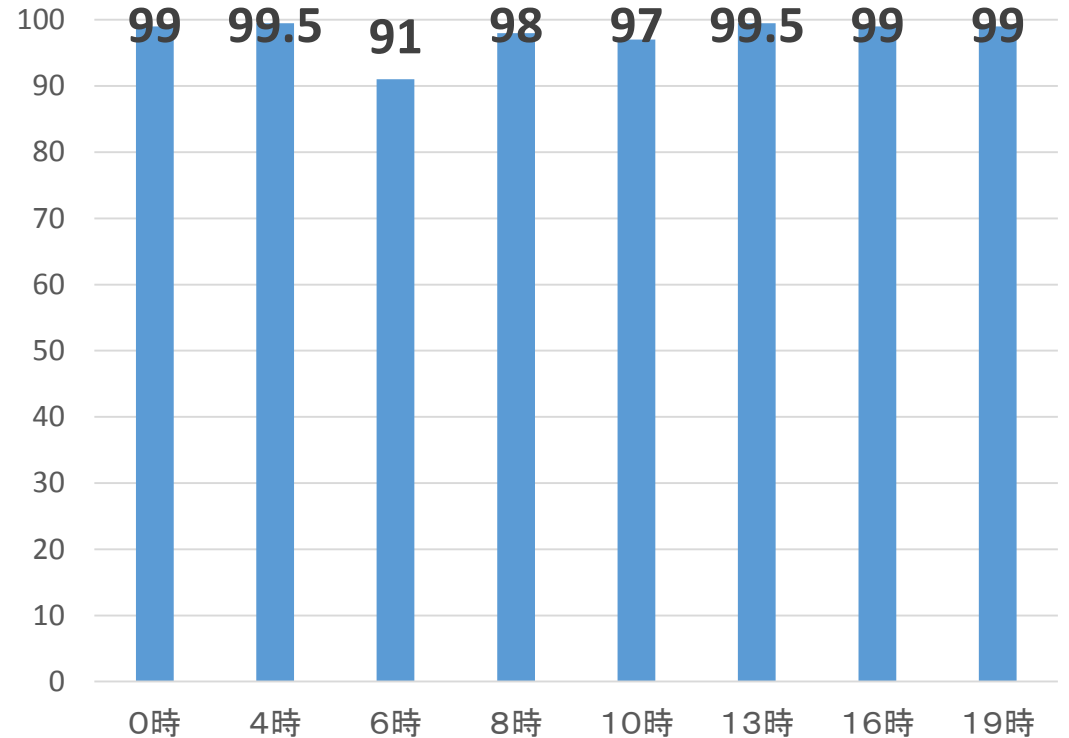
時間別による排尿あり比率は大差はない

トイレ誘導者 時間別排尿あり比率
(単位: %)

A施設



B施設



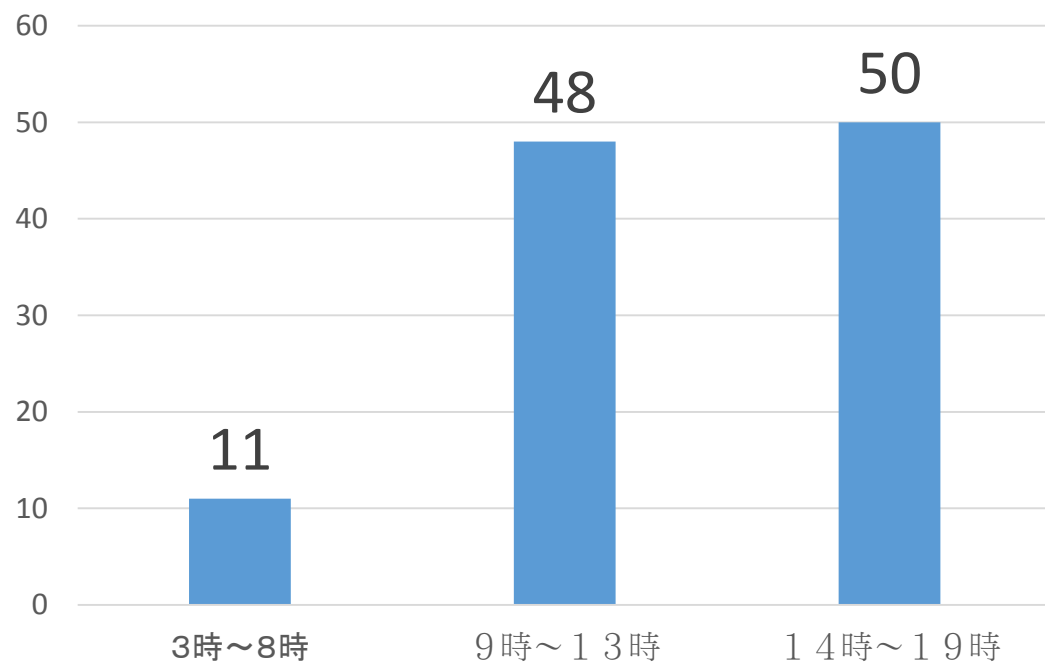
資料) A施設・B施設27年度4月排泄表

トイレの回数が多いと訴えのある比率は低くなる傾向

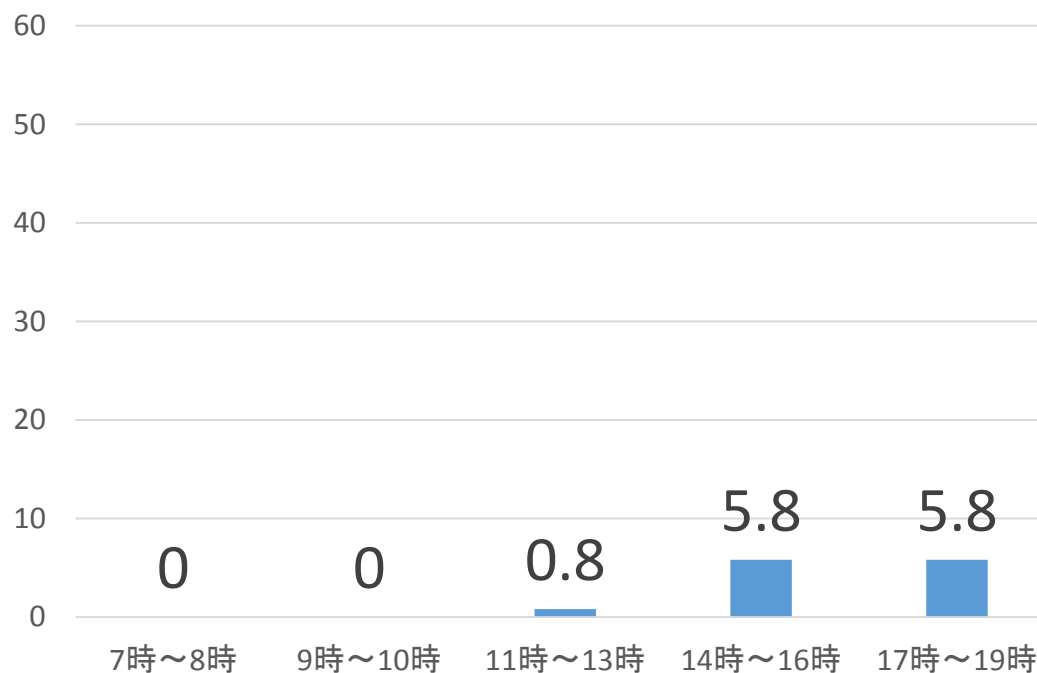
トイレ誘導者 時間別訴えのある比率の比較

(単位: %)

A施設



B施設

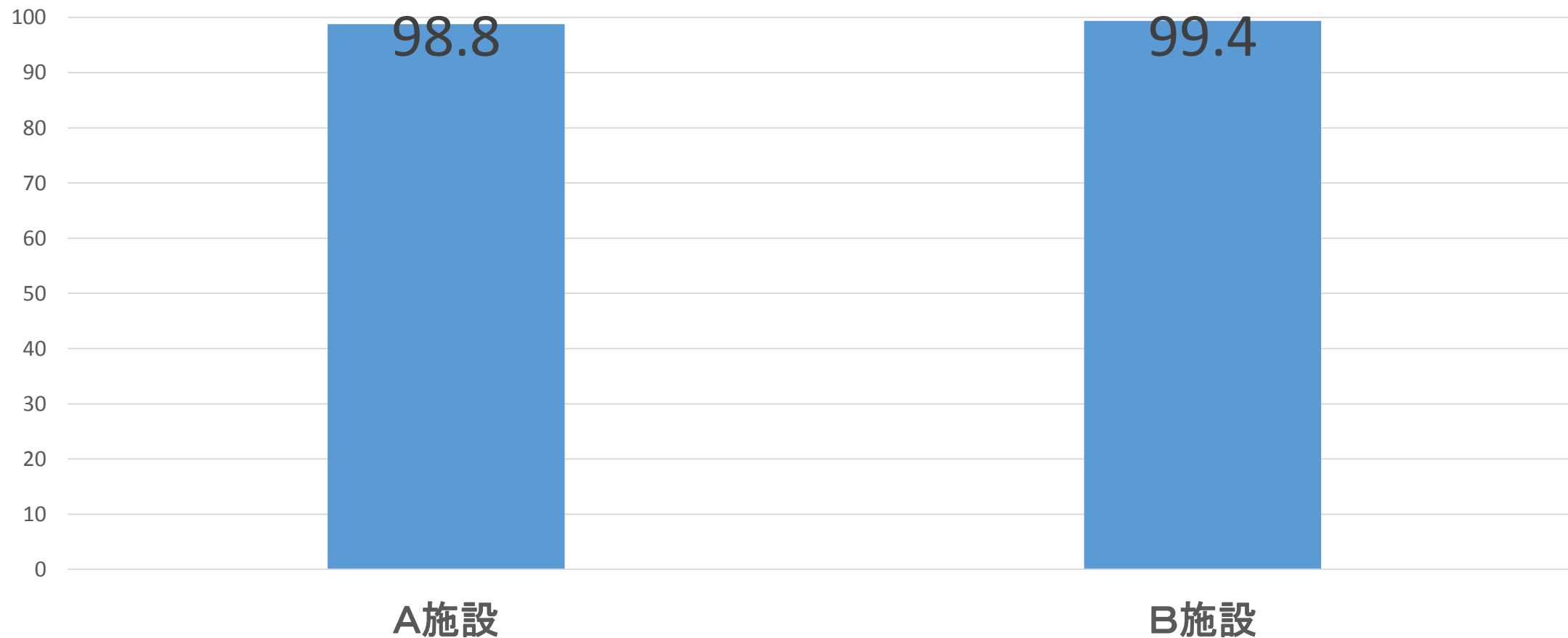


資料) A施設・B施設27年度4月排泄表、トイレの訴える方(A施設9名・B施設4名)

排尿有りの比率に大差がないものの、オムツ交換回数はB施設が1回多い

オムツ交換者 排泄回数に占める排尿有りの比率

(単位: %)

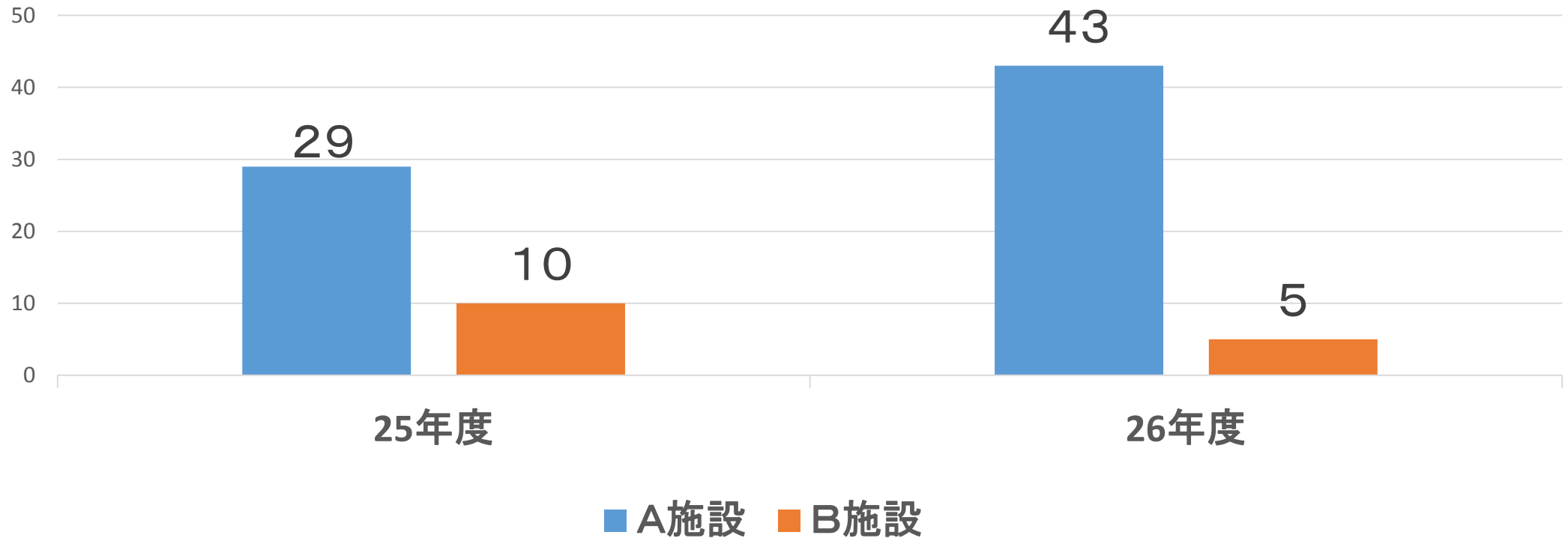


資料) A施設・B施設27年度4月排泄表

施設を比較すると、大きな差がみられ 排泄回数と皮膚トラブルに相関関係が考えられる

年度別 臀部皮膚トラブル件数比較

(単位:件)

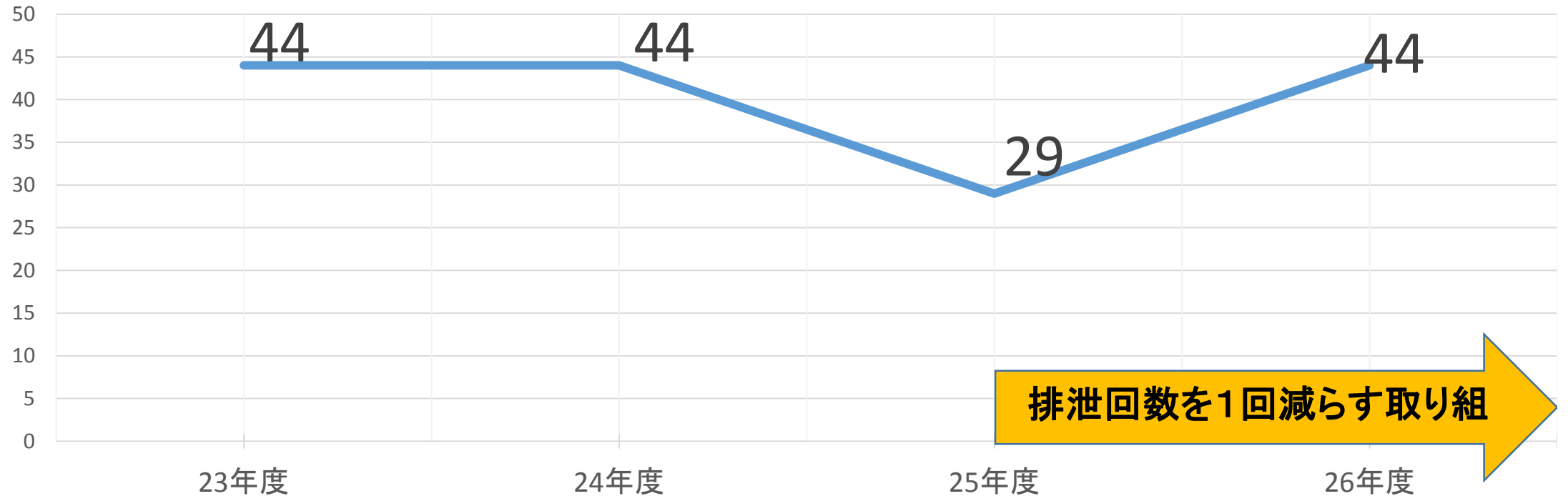


資料) A施設25年度・26年度事故データ、B施設25年度・26年度事故データ

平成25年以降、排泄回数を減らすものの、皮膚トラブル件数は横ばいで推移している
排泄回数と皮膚トラブルの因果関係は無いと予測される

年代別 臀部皮膚トラブル件数推移

(単位:件)



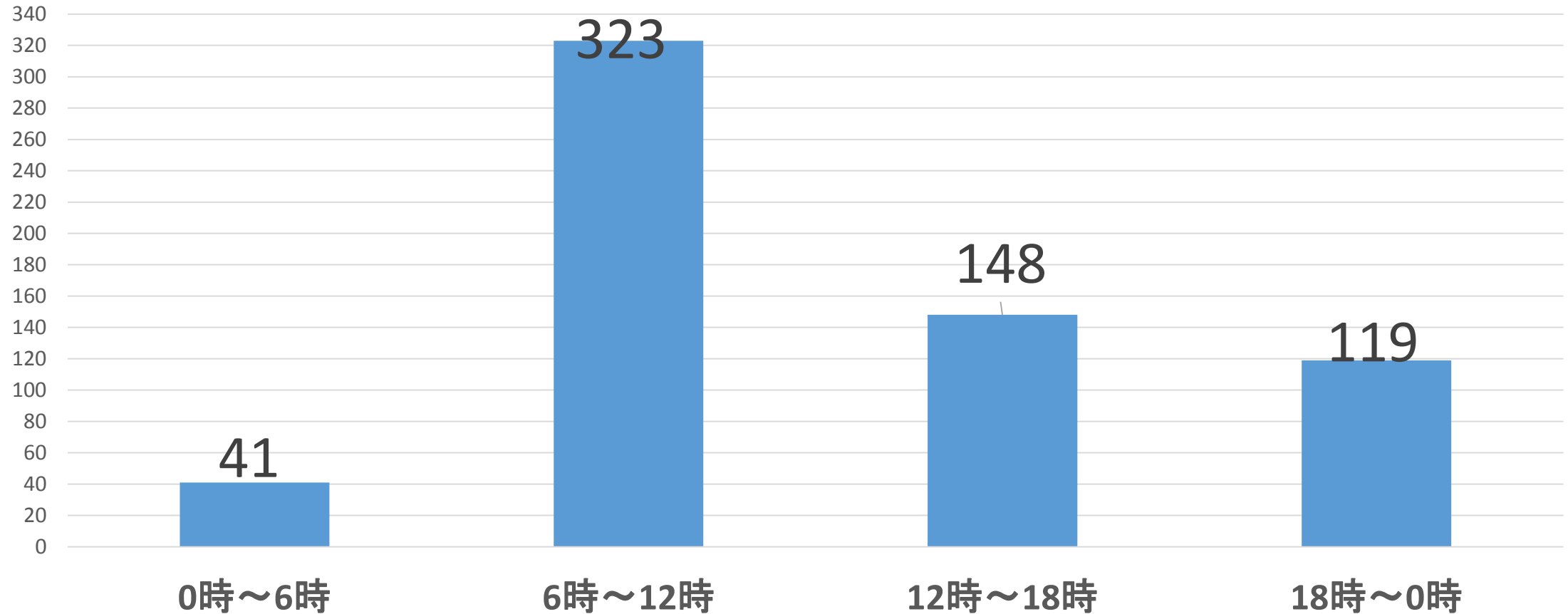
※A施設は25年度より排泄の勉強会導入により、排泄回数を1回減らす取り組み開始する

資料)A施設23年度～26年度事故データ

6時～12時が排便のタイミングである入居者が、全体の半数程度を占める

時間別 排便タイミング比較

(単位:件)

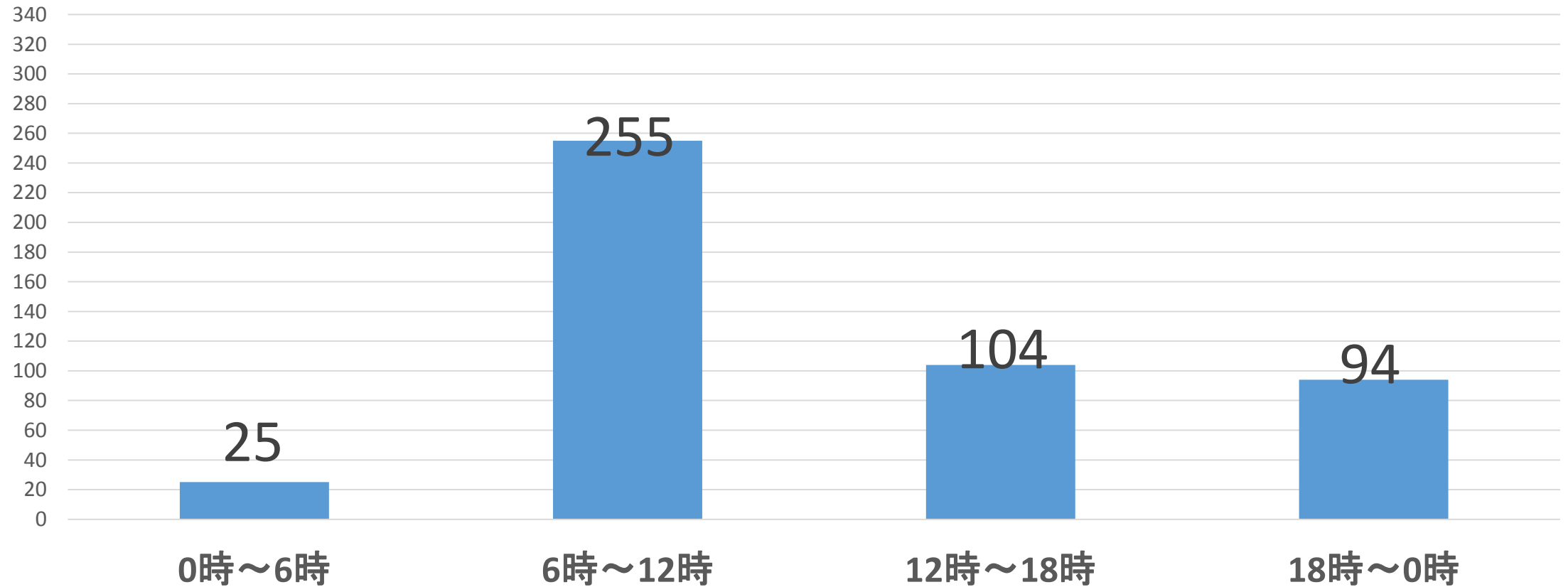


※排泄介助が必要な人に限定

資料)A施設27年度4月排泄表(トイレ誘導者35名、オムツ交換者6名)

同傾向がみられる

トイレ誘導者 時間別排便タイミング比較 (単位:件)

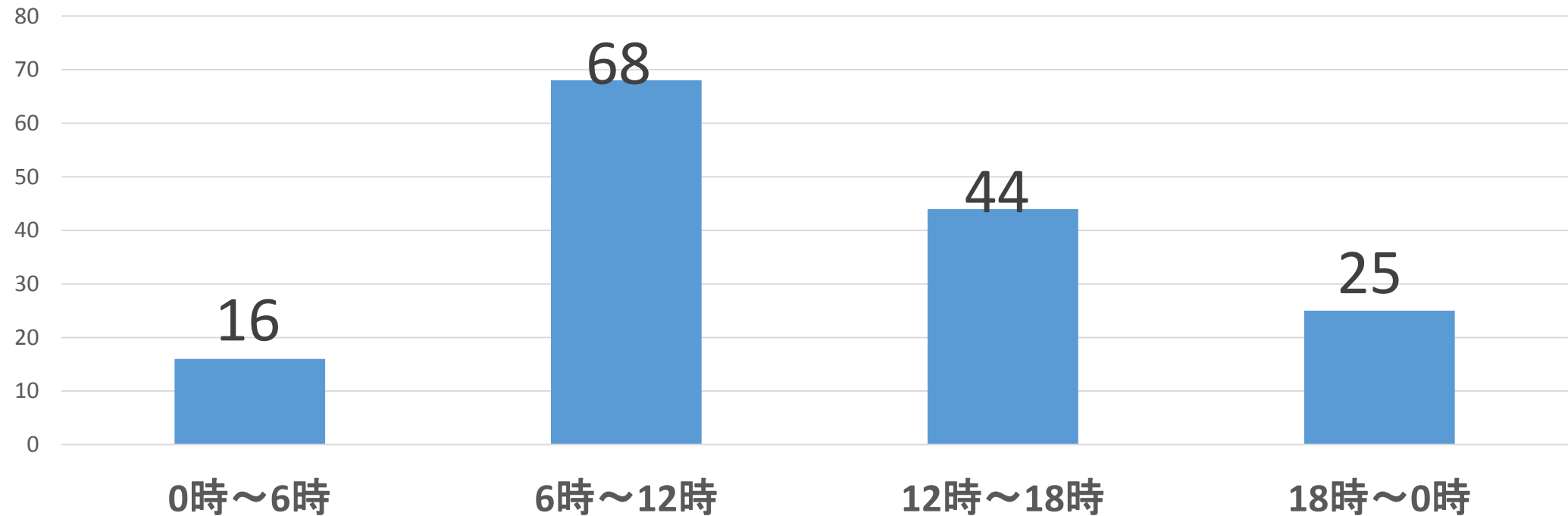


資料)A施設27年度4月排泄表(35名)

6時～12時、12時～18時の割合が多い

オムツ交換者 時間別排便タイミング比較

(単位: 件)

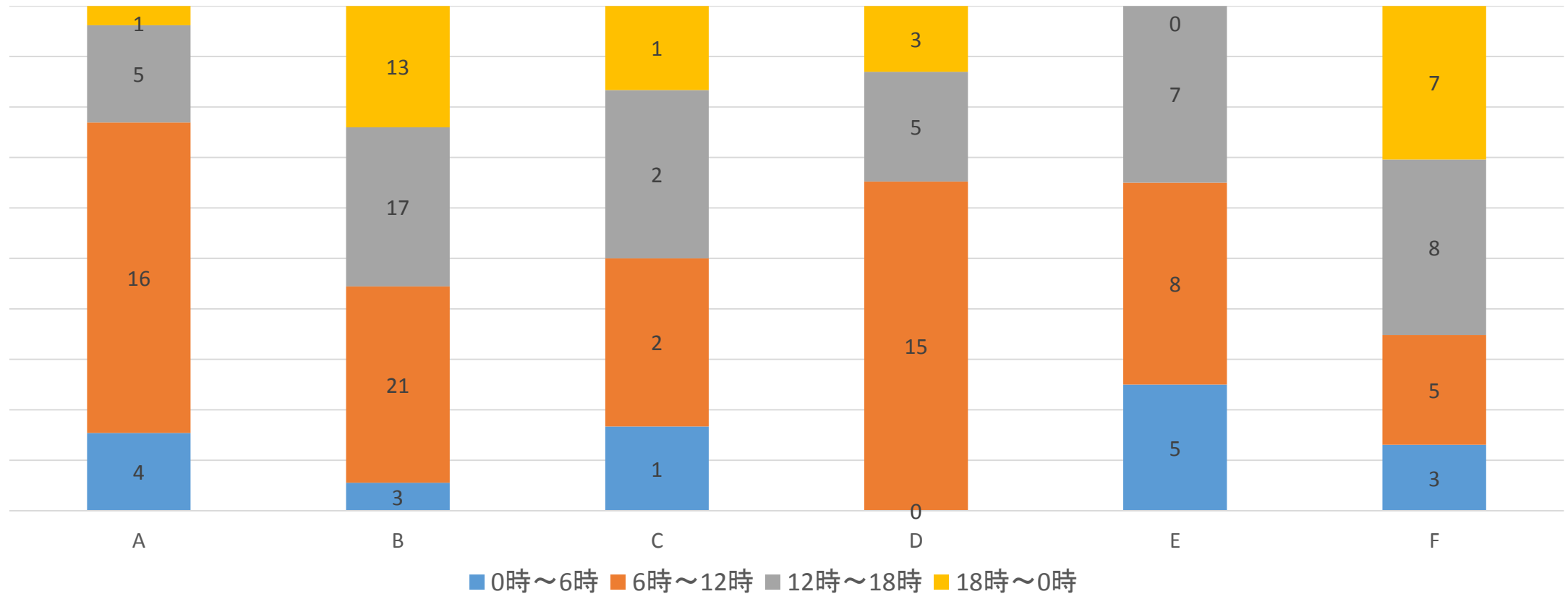


資料) A施設27年度4月排泄表(オムツ交換者6名)

6時～12時から減少傾向＝排便が続くことが予測される

オムツ交換者 個人別時間別排便パターンの有無

(単位:件)



資料) A施設27年度4月排泄表(オムツ交換者6名)

排泄におけるユニットケアの考え

- 「清潔・快適」と優先する
- それぞれの排泄パターンに合わせた、自然な排泄が出来るようにする
- 羞恥心・プライバシーに配慮した対応を心がける
- 座位排泄を心がける

⇒24時間シートを使用し、排泄パターンに合わせた対応を行うことで、自律や尊厳を守ることに繋げる

⇒1回量がパットに出たときに都度、パットを交換することを目指す

⇒本人の訴えがあれば、優先して対応することを目指す

現状および課題

高齢者の特徴 パットの機能

- ①2回～12回/日の排泄交換回数が必要と考えられる
- ②排尿より排便のほうが感染を含むリスクが高い
- ③食後は腸が動きやすい
- ④尿は1時間に60cc～120cc膀胱内に溜まり150cc～200cc程度溜まると尿意を感じる

既存施設

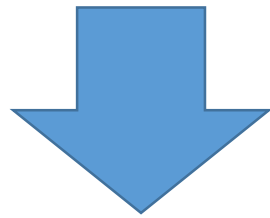
- ①排泄回数・時間による排尿比率は変わらない
- ②排泄回数が増えるとトイレの訴えの比率は低くなる傾向がみられる
- ③排泄回数と皮膚トラブルの因果関係は無いと推測できる
- ④個人の排便パターンは全体的にみると6時～12時が排便タイミングであり、オムツ交換者は続くことが予測される
- ⑤A施設・B施設入居者の排泄リズムは把握できておらず、業務中心に排泄ケアを行っている
- ⑥C施設・D施設では、食時前・食後を軸に個々に合わせて対応を行っている

ユニットケアの考え

- ①24時間シートを使用し個々の排泄パターンに合わせた対応を行っている
- ②トイレの訴えがあれば、都度対応している
- ③1回のパット尿量に合わせて都度、交換している

称揚苑：排泄ケアの方向性(案)

称揚苑方針：親孝行に、安心を
ひとりひとりに合った心地よさを考えます。



**快適に排泄出来るよう、排泄間隔を考え個人に
合わせたケアを行います。**

方向性(案)

提案	メリット	デメリット	自己評価
①一定の排泄回数(4回)に一律のケア	<ul style="list-style-type: none"> ・人員配置が検討しやすい ・業務が遂行しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄タイミングが合わないのであれば利用者への負担が大きい ・個人のリスクは高い 	×
②一定の排泄回数(4回)に個別対応(1回～8回)を促すケア	<ul style="list-style-type: none"> ・個人に合った対応が出来る ・排泄リズムに近いケアが出来る ・個人のリスクを軽減できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄タイミングに合わず、個別に対応できないのであれば、利用者の負担・リスクが大きい 	○
③一定の排泄回数(6回)に個別対応(1回～6回)を促すケア	<ul style="list-style-type: none"> ・個別にあった対応が出来る ・パットに排泄することを軽減出来、排泄リズムに近いケアが出来る ・個人のリスクを軽減できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄タイミングに合わないのであれば、職員と利用者の負担が大きい 	◎
④一定の排泄回数(9回)に個別対応(1回～3回)を促すケア	<ul style="list-style-type: none"> ・人員配置が検討しやすい ・排泄リズムに近いケアが出来る 	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄タイミングが合わないのであれば、職員と利用者の負担が大きい ・排泄時間に人員の確保が必要 	○
⑤個人に合わせたケア	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生活スタイルを尊重できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・随時対応できる人員の確保が必要 ・排泄リズムをつかむ時間を要し、随時、見直しが必要 	○